

1月

前立腺がんの早期発見

厚生連健康管理センターかがわ 保健師 山地 マミさん

前立腺は膀胱の下にあり、尿道を取り囲んでいる男性のみにある臓器です。

前立腺がんはもともと欧米に多く、早期発見のため検診が盛んに行われ、最近では死亡率減少効果が現れています。日本においては、高齢化・食生活の欧米化の影響もあり、前立腺がんの罹患率が増加し、男性では3番目に多いがんになっています。さらに、今後が増えることが予測されています。

50歳代から急激に増え始め、発生の平均年齢が70歳といわれています。初期には自覚症状がほとんどありません。がんが進行すると、「尿が出にくい」「排尿時に痛みを伴う」「尿や精液に血が混ざる」などの症状があらわれます。また、さらに進行すると、骨に転移して骨痛があらわれることがあります。

早期発見には、前立腺がん検診が有効で、約90%は転移をきたす以前に発見することができます。

前立腺がんの検診(PSA検査)

前立腺がんは唯一、血液検査で早期発見できるがんです。少量の血液を採取して、前立腺から分泌されるPSAという物質を調べます。PSAは前立腺に異常があると血液中に流れ出す量が増えるため、検査の指標として用いられ診断精度が高い検査です。継続受診し、PSAの変化を観察することで、さらに検診診断精度は高くなります。

男性の皆さん！

50歳を過ぎたら前立腺がん検診を受けましょう！